



100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番号 ばんごう	上の句 うえのく	下の句 したのく	作者 さくしゃ	
<p>ももしきやふるきのきばのしのぶにも ももしきや古き軒端のしのぶにも</p>	<p>人もをし人もうらめしあぢきなく ひともおしひともうらめしあぢきなく</p>	<p>風そよならの小川の夕暮は かぜそよぐならのおがわのゆうぐれは</p>	<p>来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに こぬひとをまつほのうらのゆうなぎに</p>	<p>花さそふ嵐の庭の雪ならで はなさそうあらしのにわのゆきならで</p>	<p>おほけなくうき世の民におほふかな おおけなくうきよのたみにおおうかな</p>	<p>み吉野の山の秋風小夜ふけて みよしののやまのあきかぜさよふけて</p>	<p>世の中は常にもがもな渚漕ぐ よのなかはつねにもがもななぎさこぐ</p>	<p>わが袖は潮干に見えぬ沖の石の わがそではしおひにみえぬおきのいしの</p>	<p>きりぎりすなくやしもよのさむしろに きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに</p>	番号	上の句	<p>ころもかたしきひとりかもねん 衣かたしきひとりかも寝む</p>	<p>後京極摂政前太政大臣 にじょういんのさぬき</p>	作者
<p>なほあまりある昔なりけり なおあまりあるむかしなりけり</p>	<p>世を思ふゆゑに物思ふ身は よをおもうゆゑにものおもうみは</p>	<p>みそぎぞ夏のしるしなりける みそぎぞなつのしるしなりける</p>	<p>焼くや藻塩の身もこがれつつ やくやもしおのみもこがれつつ</p>	<p>ふりゆくものはわが身なりけり ふりゆくものはわがみなりけり</p>	<p>わがたつそまにすみぞめのそで わがたつ杣に墨染の袖</p>	<p>ふるさと寒く衣うつなり ふるさとさむくころもうつなり</p>	<p>あまの小舟の綱手かなしも あまのおぶねのつなでかなしも</p>	<p>人こそ知らね乾く間もなし ひとこそしらねかわくまもなし</p>	<p>二条院讃岐 かまくらのうだいじん</p>	番号	下の句	<p>鎌倉右大臣 さんぎまさつね</p>	作者	
<p>順徳院 じゆんとくいん</p>	<p>後鳥羽院 ごとばいん</p>	<p>従二位家隆 じゆにいゐえたか</p>	<p>権中納言定家 ごんちゅうなごんていか</p>	<p>入道前太政大臣 にゅうどうさきのだじょうだいじん</p>	<p>前大僧正慈円 さきのだいそうじょうじえん</p>	<p>参議雅経 さんぎみやへ</p>	<p>鎌倉右大臣 さんぎまさつね</p>	<p>二条院讃岐 にじょういんのさぬき</p>	<p>後京極摂政前太政大臣 ごきょうごくせつしやう さきのだじょうだいじん</p>	番号	下の句	<p>鎌倉右大臣 さんぎまさつね</p>	作者	